

【福祉協議会における 2024 年度の活動報告及び 2025 年度活動予定について】

福祉協議会 風間真実

福祉協議会は、医療協議会に次ぐ、会員数 22% で構成されています（2025 年 3 月 31 日現在）。

福祉協議会は「高齢」「児童」「障がい」の 3 つの職域から構成され、多くの会員が高齢者施設で勤務しております。

昨年度は日本栄養士会の調査（介護保険施設及び通所サービス事業所等における実態調査）があり、提出件数がトップクラスで 130 施設の多くの皆さまにご協力をいただきありがとうございました。

また、生涯教育研修では医療との合同で、① 2024 年度トリプル改定について②栄養ケアプロセス（演習）に参画し、栄養研究発表会では「グループホームでの管理栄養士の関わりについて」の事例発表を行いました。

今年度は「GLIM 基準」や「嚥下調整食分類 2021」に関する講義と「情報交換会」を開催します。とくに、「情報交換会」では、「仲間づくり」を念頭に置いています。管理栄養士・栄養士がひとり職場の施設も多く、食材費の高騰、介護報酬改定、BCP 策定など悩みを抱えている方も多いと思います。専門的知識のブラッシュアップだけでなく、気軽に相談できる仲間を作っていきましょう。



【2024 年度 実践力を高める 論文読解・データ解析スキル研修】

研究教育協議会 伊藤央奈

論文読解やデータ解析のスキルアップを目的に、福島県立医科大学の日高友郎先生を講師に迎え、2 月 13 日（木）に研修会を開催しました。

今回は、医療・保健統計において避けて通れない「重回帰分析」に焦点を当て、ご講義いただきました。重回帰分析は、ひとつの結果に対して複数の要素が同時に影響を与えているような場合に、それぞれの影響を分けて調べるための方法です。特に、結果に影響を与えるほかの要因（交絡因子）も一緒に考えることがとても重要です。こうすることで、調べたい要素と結果との真の関係が見え、より正確で信頼できる分析結果が得られます。

研修では、理論的な解説に加えて、実際の研究データを用いた具体的な解析手順の紹介も行われ、実務への応用を可能にする内容でした。参加者からは「統計への苦手意識が薄れた」「現場で役立てたい」といった前向きな声が多く寄せられ、統計的な視点を持って論文を読み解く力や、現場でのデータ活用力の向上が期待されます。さらに、参加者からは演習の機会を求める声もあり、今後の研修では実践的なトレーニングを検討しています。

